

災対バルクで地域貢献

賃貸住宅オーナー

中央セントラルの提案を快諾

「話を持ちかけてくれたときは、とてもうれしかった」。昨年八月、秦野市南矢名に賃貸マンション（自宅含め四十戸）を所有

する小早川多喜江さん(62)は、夫とともに中央セントラルガス(本社・小山市、酒井邦夫社長)から災害対応バルク設置の提案を受

け、快諾した。同じ地域でスーパーマーケットも運営していることから「地元に還元させてほしい」(多喜江さん)と常々考えていたという。十一月末には設置が完了。災害時には一時避難場所として地域に開放することを自治会と約束して

おり、今後は利用に慣れてもらうことを目的に防災訓練も計画している。設置に当たっては、日本LPガス団体協議会が窓口となる国の「平成二十年度石油ガス安定供給対策事業(災害対応バルク設置補助)」を活用した。

補助条件である「設置先十件」は岩谷産業がとりまじめ役となり、グループ企業のセントラル石油瓦斯(本社・東京、重松公夫社長)にも設置先を求めた。設置先選びの指示を受けた中央セントラル秦野営業所の今井厚所長は、十八本のシリンダーで供給していた小早川さんのマンション「サンブライイトいずみ」(鉄筋コンクリート四階建て)に白羽の矢を立てた。

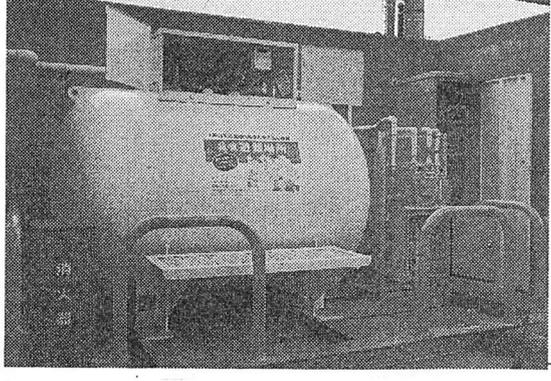
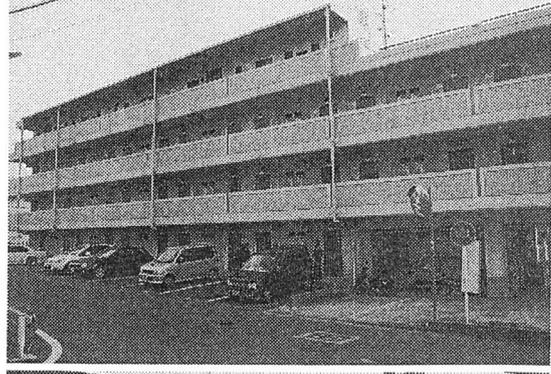
近くに東海大学湘南キャンパスがあることから、「サンブライイトいずみ」の居住者は、ほぼ一〇〇%同

大の学生という。学生たちを預っている責任から「いざというとき(災害時)のために、農家だった頃の布団もとってある。付近に農家もあるし、スーパーの食料品も出したい」と話す小早川多喜江さん。あとは火があれば、と考えていたところに災害対応バルクの話が舞い込んできた。

岩谷産業がとりまとめた災害対応バルク十件の設置は、半分を同社、もう半分をセントラル石油瓦斯が担当。セントラルはサンブライイトいずみのほか、幼稚園(小山市)、保育園(富山県高岡市)など四カ所へ設置した。



小早川多喜江さん(右上)と賃貸マンション(左上)、災対バルク(左下)。自治会で設備を利用した防災訓練も計画



プロパン・ブタンニュース
平成21年2月9日(月) 掲載記事